

## 農業版BCPの普及拡大のため、拠点独自でハンドブックを作成し、生産者の防災体制の充実強化を図る

JA、町、拠点、生産者が協力・連携して農業版BCPハンドブック（JAしべちゃモデル）を作成。地域農業の維持・継続に向けて、防災・減災の充実強化を図る。

### ○ 施策分類

災害、収入保険

### ○ きっかけ・背景・課題の把握

農業版BCPの作成は、防災・減災への備えとして大変重要な取組だが、管内JA及び市町村では普及が進んでいない状況が見受けられた。

一方、JAしべちゃと標茶町では、農業者向けの災害時の水の確保対策として貯水タンク等の導入支援に向けて検討を進めていることを知り、当拠点では、農業者が災害の初動から有効活用できるよう独自に農業版BCPの携帯用ハンドブックを作成し、管内市町村及びJAを通じて農業者への普及拡大を図ることとした。さらに、標茶町をモデル地区として、JA、町、拠点の3者によるプロジェクトを設置し、当拠点で作成した携帯用ハンドブックを基に独自のハンドブック（JAしべちゃモデル）を作成し、事業継続及び防災体制の整備に取り組むことを提案した。

### ○ 取組の内容

当拠点では、令和6年9月に農業版BCPの携帯用ハンドブックを作成。また、JAしべちゃモデルの作成に当たり、主任以下プロジェクトチームを新たに設置し、JA及び町の関係者と3者で企画会議を3回実施した。企画、デザインなどアイデアを出し合い、意見や提案内容を協議するとともに、生産者の声を反映させるための話し合いの場を設けた。

そのほかに、拠点ホームページへの農業版BCP特設ページを開設、防災セミナーの開催等により、携帯用ハンドブックを活用した農業版BCPの普及拡大を図った。

### ○ 効果・成果、今後の方向性

約250戸の畜産農家のハンドブックとなる「JAしべちゃモデル」作成のための伴走支援により、JA・町・拠点・生産者が連携した「現場と共に解決する」取組となった。今後は、他のJAや市町村とも協力・連携し、携帯用ハンドブックを活用した農業版BCPの更なる普及拡大に取り組む。



BCPハンドブック



生産者との協議の様子

### 体制図

BCPハンドブック（JAしべちゃモデル）作成プロジェクト

